(8)中国



中国地域では、景気は回復している。

- ・ 鉱工業生産は増加している。
- 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は改善している。

前回調査からの主要変更点なし。

1.生産及び企業動向

(1)鉱工業生産は増加している。

化学は、自動車向け国内需要やアジア向け輸出を中心に高生産が続いており、横ばいとなっている。鉄鋼は、アジア向け輸出や国内の自動車・造船・工作機械向けに需要があり、前期比ではマイナスなものの高水準で推移している。輸送機械は、自動車で高水準の輸出が続いているほか国内販売も好調なことから、増加している。一般機械は、産業用が中国などのアジアを中心とした受注増加から、工作用が好調な自動車向け受注を中心に、増加傾向が続いている。電子部品・デバイスは、デジタル家電向けの液晶素子や半導体などが上昇し、増加傾向が続いている。



(備考)平成16年6月の中国は速報値。

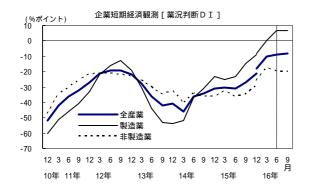
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

| | | 生産 | | 出荷 | 在庫 |
|----------|--------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| | 付加価値 ウェイト | 1 ~ 3 月期 | 4 ~ 6 月期 | 4 ~ 6 月期 | 4 ~ 6 月期 |
| 化学 | 17.6 | 6.5 | 0.7 | 2.2 | 3.5 |
| 鉄鋼 | 12.1 | 5.5 | 2.7 | 1.2 | 11.2 |
| 輸送機械 | 12.0 | 7.8 | 8.2 | 11.5 | 1.5 |
| 一般機械 | 10.4 | 3.5 | 6.6 | 1.7 | 11.1 |
| 電子部・デバイス | 7.6 | 10.9 | 9.2 | 10.6 | 1 |
| 鉱工業 | 100.0 | 1.5 | 2.2 | 3.9 | 4.8 |

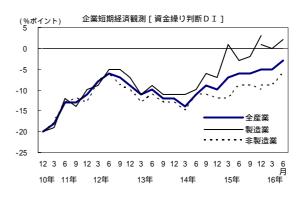
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

- 2.4~6月期は速報値。
- 3 .電子部品・デバイスの在庫指数は公表されていない。

(2)企業動向の業況判断は「悪い」超幅がおおむね横ばい、資金繰り判断は「苦しい」超幅が縮小している。 企業短期経済観測調査[業況判断DI、資金繰り判断DI]及び中小企業景況調査[業況判断DI]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。16年9月は予測。 なお、15年12月分については新・旧基準の値を併記。



(備考)「楽である」・「苦しい」回答者数構成比。 なお、15年12月分については新・旧基準の値を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。16年期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (7月調査)[企業動向関連(現状判断)]

「素材系の値上げは一服した感があるが、川下側にそれがじわじわと影響してきている (非鉄金属製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

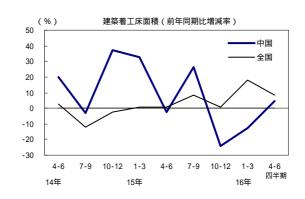
(3)16年度の設備投資は前年度を大幅に上回る計画となっている。

企業理解経済観測調査[設備投資(6月調査)]

(前年度比增减率、単位:%)

| | 15年度実績 | 16年藍愐 | |
|-------|------------|-----------|--|
| 全 産 業 | 24.3(3.2) | 10.5(7.1) | |
| 製 造 業 | 52.5(1.1) | 9.6(8.9) | |
| 非製造業 | 4.1(9.4) | 12.1(4.4) | |

(備考)()は前回(3月)調査比修正率。



2.需要の動向

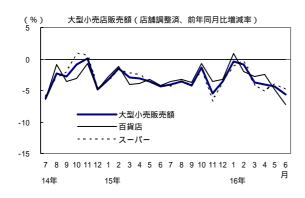
(1)個人消費はおおむね横ばいとなっている。

大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、4月は気温の寒暖差が大きかったことが影響し、衣料品の春物・夏物ともに売上が減少した。5月は台風や例年より早い梅雨入りなどの天候不順で土日を中心に雨天が多く、来店客数が伸び悩んだ。6月は夏物バーゲン前の買い控えなどで、主力の衣料品で前年比同月比で12.2%減と大きく下回った。なお、日本百貨店協会によると、中国地区の7月の売上高は、前年同月比で1.2%減となっている。スーパーは、6月に主力の飲食料品において動きがみられたものの、衣料品を始めとした品々が軒並み前年を下回り、総じて低調になっている。

景気ウォッチャー調査 (7月調査) [家計動向関連DI(現状判断)]

「7月のセール状況を見ていると、来店客数は10%以上増えているが、売上の伸びは5%程度にとどまっている。セールだからといって、まとめ買いする客は少なく、単品買いの多さが目立つ。購買意欲は高くても、財布のひもは固いのを感じる(百貨店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

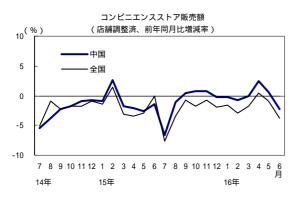


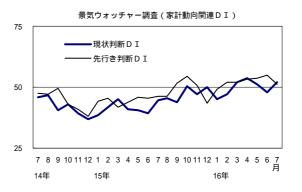
| | 15年7-9月 | 10-12月 | 16年1-3月 | 4-6月 | | |
|----------|---------|--------|---------|------|--|--|
| 大型小売店 | 3.9 | 3.5 | 1.7 | 4.7 | | |
| 百貨店 | 3.5 | 2.6 | 1.2 | 4.8 | | |
| スーパー | 4.1 | 4.1 | 2.0 | 4.7 | | |
| コンビニ | 2.5 | 0.4 | 0.4 | 0.3 | | |
| 景気ウォッチャー | 44.6 | 49.3 | 48.1 | 50.9 | | |

(前年同期上増減率 単位・%)

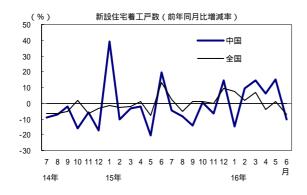
(備考)1.大型小売店及びコンビニ販売額は店舗調整済。

2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の 現状半断DIの3か月単純平均。





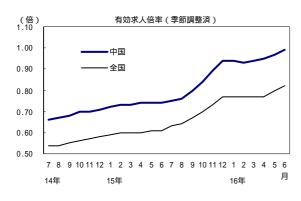
- (2)住宅建設はおおむね横ばいとなっている。 持家が前年を下回ったものの、主に貸家が上回ったことから、おおむね横ばいとなっている。
- (3)公共投資は16年度累計でみると前年度を下回っている。

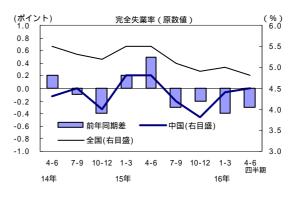




<u>3 . 雇</u>用情勢等

(1)雇用情勢は改善している。 有効求人倍率及び完全失業率 有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。





景気ウォッチャー調査(7月調査)[雇用関連(現状判断)]

(件、億円、%)

「大型スーパー開店に伴う求人や業務請負業からの大量求人など、久しぶりに新規求人が大幅に増加した(職業安定所)」など、「やや良くなっている」とする回答が多くみられた。

- (2)企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。
- (3)消費者物価指数は下落している。

企業倒産

15年7-9月 10-12月 16年1-3月 4-6月 16年7月 倒產件数 166 143 140 164 52 (前年比) 33.1 43.7 40.2 24.4 10.3 負債総額 344 552 331 559 199 (前年比) 35.0 58.2 63.8 59.3 62.3



景気ウォッチャー調査 (7月調査)[合計DI(特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・猛暑のため、ビアガーデンが盛況である。また、中国総体の影響でホテルの利用者も非常に多く、タクシーを利用する人がかなり増えている(タクシー運転手)。
- < 先行き >
- ・優秀で必要とされる「質」の部分から、リストラ反動で「量」での採用にシフトする兆しが見え、バブル期同様の人材獲得合戦になる可能性もある(人材派遣会社)。

